



「歌川国芳」瓶割り柴田の図（個人蔵）

瓶割り柴田の逸話が残る

戦いの山 瓶割山



画写真：滋賀報知新聞社

一の郭・のろし駅伝



土橋



古井戸



石垣

山中に残る瓶割山城の遺構

瓶割山とは

瓶割山は岩倉山と一つの山塊を成し、雪野山の北西端のすぐ近くに位置しています。そしてその稜線は東近江市と近江八幡市との境界を成しています。この山にも悠久の歴史を感じさせる古墳が点在しています。

標高232mの山頂付近には戦国期に柴田勝家が布陣したとされる瓶割山城の城跡があります。

瓶割山城跡

瓶割山城は古くは長光寺城とよばれ、応仁の乱の最中の応仁二（1468）年に近江守護佐々木六角高頼と対立した佐々木四郎政亮が、高頼の居城である観音寺城を攻め落とすために築城したとされる城跡があります。そしてこの戦いが終結した後この城は、観音寺城の支城として使われたと考えられています。

土塁で守られた広大な城域

瓶割山は隣の岩倉山と一つの山塊を成しており、その山間部は山裾までなだらかな斜面が広がっています。この斜面の近江八幡側の一角は土塁で守られており、その内側には不二の滝と名付けられた小さな人工の滝と神社があります。

一方、東近江市側の山間部は広範囲に宅地化されていま

す。この東近江側の山間部は、宅地の造成時に大きく改変されており、城山としての姿はみられません。しかし調べてみると、宅地として利用されていない区間に土塁のと旧道の一部が残っています。明治期の地図にも土塁跡らしきものが山間部を横断するように描かれており、東近江市側の山間部も土塁で守られていたと考えられます。



近江八幡市長福寺町に残る、瓶割山山裾の土塁



土塁と旧道を切通して施設された水道施設管理道路



鳴谷集落の東端付近に残る土塁と旧道

遺構が残る山頂へ

登り口は雪野山から徒歩10分



瓶割山の登り口は、
近江八幡市側と東近江市側の
両方にあります。
東近江側の登り口は、雪野山の
北西端から徒歩10分の位置にあります。

Google MAP



瓶割山城跡と瓶割山周辺：蒲生郡志より

柴田勝家とは

1522年に尾張国で生まれ
1583年6月14日没す。織田
信長に仕え、その妹のお市の方
をめとる。武勇に優れ鬼柴田の
異名を持つ。



柴田勝家像 - 本朝名將百図より
出典：長浜城歴史博物館

Google Earth

さらに、織田信長が上洛を果たした後の近江平定戦では、柴田勝家がこの城に入り、抵抗を続ける六角側の残存勢と戦ったとされています。

そしてその戦いの中、六角勢に取り囲まれて水源を断れた柴田勝家は、残った水が入った瓶を前に置き、この水が尽きて渴き死ぬよりも、力のあるうちに打って出ようと諭し、水瓶を割ったという逸話が残されています。

そしてこの事により柴田勝家は「瓶割り柴田」と称されるようになり、これが瓶割山という名の由来になっています。

山頂付近には複数の郭、石垣、土橋、古井戸などの遺構が残っています。

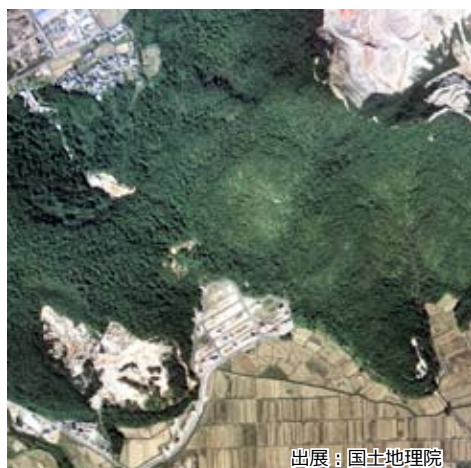
近江八幡市教育委員会発行の調査報告書より



発掘直後の古井戸と石垣

昭和 50 年の瓶割山

瓶割山と岩倉山に採土の跡が見られる。鳴谷に住宅が建ち始めている。



出展：国土地理院

昭和 36 年の瓶割山

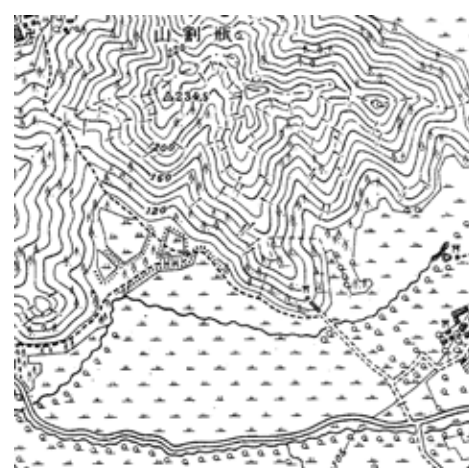
北東側の尾根がまだ残っている。鳴谷山間部は水田であった事がわかる。



出展：国土地理院

明治 24 年頃の鳴谷周辺

旧道が鳴谷を横断している。旧道の南側のり面は急斜面になっている。



「測量法に基づく国土地理院長承認（複製）R 1JHf 1154」「本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」